

あい
愛

愛は煩惱の一つとい
つたら驚く方もいる
かもしれせん。

仏教の愛の原語はトリシユナ

ーで、欲望の充足を意味し、渴愛

と訳されます。のどがカラカラに渴いたときに水を激し
く欲する、そのような欲望です。誰かを愛するからこそ
苦しむ。愛するが故に別れの時に苦しむ。仏教では愛
別離苦といわれ、代表的な苦に数えられます。愛するが
故に涙するときがありますが、時として怨みへと変わる
時もあります。これは人ばかりではなく、国にも当ては
まる事です。愛国心という言葉は、度が過ぎると戦争に
つながります。愛で自らを満たそうとすると、大きな苦
しみが生じてくる。

一方で、愛を肯定的に用いる場合があります。例えば



子供に対する親の愛情、この愛情が、
我が子だけでなくすべての生きとし
生きるものに与える愛については

〈慈愛〉という言葉で表されます。

One for All
All for One!
若任取

みんなの 仏教用語

今月からの新
コーナー。身近
な仏教用語を
ご紹介です。

あい きよう
愛敬

君は愛嬌がいい
ね 愛想がいい
無愛想だ 愛想

が尽きた

これらすべてが仏教語の愛敬から
派生しています。愛敬とは、仏様や
菩薩のやわらかな表情の事を指しま

す。また、愛敬は「愛」の一字が入りますが、一方通
行の愛ではないのです。一方的な愛は、ともすれば人
を憎しみ傷つけることにつながります。無量寿経に

は、「相敬愛」とあり、お互いに敬い愛すとあります。

仏教学院時代の友人の結婚式で、先生がスピーチをさ
れました。「私共は浄土真宗のみ教えを聞いておりま

す。ですから、あなたたち二人にはよき夫よき妻よき
夫婦になってほしいとは思いません。よき人間：それ

は土台無理でございます。そして苦しい。そうではな

く、時には愚かなこととする人間なん

だと深く自覚して、お互いに頭が下

がり、互いを尊敬する愚かな夫婦で

あってほしいと思います。」

実るほど頭を垂れる稲穂かな

